

頻発クレーム① 壁紙に目透きが起こる

☆壁紙の目透きの大きな要因の一つは、クロス糊の薄め過ぎです！

●最近、壁紙の目透きのクレームが多発しています。

目透きが発生する要因として、壁紙の材質、接着剤の使用法、施工方法（突き付け施工と重ね切り施工）等が挙げられますが、大きな要因の一つとしてクロス糊の薄め過ぎがあります。

●施工業者様によって希釈率が大きく異なっています。

クロス糊を希釈する際、クロス糊 18 kg に対し、水の添加量は 9kg～18kg と、施工業者様によりかなりのバラツキがある事が分かりました。ヤヨイ化学の製品の標準希釈率は 7 割希釈（クロス糊 18kg に対し水 12,6kg）と規定されていますが、それを遥かに上回る水の量で希釈されている方も多数おられるという事です。このように、もったいないからといってクロス糊を薄めて施工㎡数を延ばそうとすると、かえって損をしてしまうことがあります。

●クロス糊の薄め過ぎは、目透きの原因になります。

クロス糊を薄め過ぎた場合、接着力が定価するとともに、壁紙に過剰な水分が吸収されるため壁紙の伸縮率が大きくなり、目透きが起こりやすくなります。一般的に、目透き量は 0,2mm 以上になると目透きが明確に分かるようになってしまい、高確率でクレームの対象となります。8 割以上で希釈した場合は 0,2mm 以上の目透きが起こることがヤヨイ化学の実験によって判明しています。

●薄い糊も濃い糊も、施工㎡数は変わりません。

意外に思われるかもしれませんが、クロス糊 1 箱あたりの施工㎡数というものは、希釈率を高くしようが低くしようが変わりません。具体例を挙げると、

7 割希釈の場合→塗布量 135g/㎡（ヤヨイ糊付機械 COATAX の場合 目盛り：1,5）
糊付㎡数：約 220 ㎡

9 割希釈の場合→塗布量 150g/㎡（ヤヨイ糊付機械 COATAX の場合 目盛り：2,5）
糊付㎡数：約 220 ㎡

このように、クロス糊を薄く作るメリットはこれとってありません。

濃く希釈したクロス糊を薄付けすることが、壁紙の目透き防止に有効です。

みなさまの大切なお客様のためにも、クロス糊の薄め過ぎは絶対に避けましょう。